

高校の同級生同士がUターンで  
ダンスインストラクター

HIP HOP

JAZZ

生徒やお客さまが楽しめる作品になるように選曲し、ダンスや衣装などを考えます。生徒が輝いている姿を見た時や才能が開花する瞬間を見た時にやりがいを感じます。生徒と一緒に自分も成長できるすてきな仕事です。

いしはら ちか  
石原千可さん  
下関市出身(Uターン移住者)

いいのまな  
飯野真菜さん  
下関市出身(Uターン移住者)

発表会など、作品作りが立て込んでくると頭がパニックになります(笑)。生徒の成長をレッスンやステージ上で感じられることがやりがいです。自分にしかできない踊りを見つけ、それを人に伝えられる、とっても幸せな仕事です。

# 移住編 仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

ダンスをしたくてアメリカへ飯野さんと石原さんは高校の同級生で同じダンススタジオに通っていました。ダンスで何かしたいと思っていた時、アメリカに行っているダンスの先生の話を聞き、仲間と共通のレッスンを受け、刺激的で楽しい日々だったと2人は振り返ります。

やがて2人は新たなダンスのチャンスを求め、東京へ。飯野さんは充実した日々を過ごす一方、将来の不安もありました。

そんな時、出身スタジオのイベントに参加。インストラクターや生徒の輝く姿を見て感動し、下関に帰る決断をしました。時期を変え、石原さんもふと帰ろうと思う、下関へ。

下関から出たいと思う君へ

「出てみると、下関とは違うことを学べます。戻ってきて、下関は住みやすいと改めて感じます。昔からの人とのつながりもうれしいです」と飯野さん。「今関わっている人たちとのつながりを大切にして、たくさんの経験を積んでほしいです」と石原さん。

2人は、好きなダンスの道を生徒と共に歩んでいます。

次世代へつないでいく

2人がダンスを始めた時から、一番近くにいる心強い先輩の殿井さん。2人をインストラクターとして受け入れてくれました。

発表会の直前まで念入りに生徒と打ち合わせをする石原さん。何カ月も前から練習を重ねます。



憧れから大切な仲間へ



とうきょうでダンスをしていた頃